



福島 93 便（視察研修 6 号）報告書

《新地町》

1. 実施日

2019 年 2 月 17 日（日）

2. 目的

- (1) 東日本大震災と原発事故を『伝えていく』
- (2) 地元の現状、今を『正しく知る・伝える』
- (3) 自分達にできることを『考える』

3. 主催

かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）

4. 協力

新地町

富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部（バス、活動報告冊子化）

azbil みつばち倶楽部（活動報告冊子化）

5. 視察研修実施資料

福島 93 便（視察研修 6 号）＜新地町視察研修＞案内資料 v1.0（別紙）
（新地町の紹介、被災状況、他）



目次

1. はじめに	3
2. 視察研修場所・時間等	4
3. 視察記録（写真一部）	5
4. 視察研修参加者報告	8
5. 参加者情報	15
6. 視察研修便参加者アンケート集計	16
7. 会計（実績）	18



1. はじめに

新地町

復興推進課 専門官 加藤泉 様

復興推進課 専門官 吉本幸弘 様

復興推進課 コミュニティ支援員 川上照美 様

ご多用にもかかわらず、この度の視察・研修に丁寧にご準備、ご対応いただいたすべての皆様に、厚く御礼申し上げます。実際に現地を訪れて話を伺うことで初めて感じられることもあり、貴重な機会となりました。

また詳細な最新の資料をご用意いただき、復興へ向けての実情と課題について理解を深めることができました。これらの資料は、今後の活動に際して何が必要なのか考えていく良い資料になると思います。ありがとうございました。

私達が現地に足を運ぶ理由

自分が現地に行って・自分の目で見て・自分の耳で聞いて・自分で体感して、感じるそして、正しく知り、正しく伝える、それが大事なことと考えます。

現地に足を運んで初めてわかることはたくさんあります。

今回の訪問はとても貴重なものと思います。

参加者一同大切にさせていただきたいと思います。

かながわ「福島応援」プロジェクト
代表 渡辺孝彦 / 広報 東尚子
参加者一同

2. 視察研修場所・時間等

2.1. 行程

2019 年 2 月 17 日（日）

- 08:30 ホテルみなとや出発
- 09:00 新地町役場、庁舎会議室で座学・庁舎 4 階より概要説明等
- 10:00 町内視察・ご案内
 （新地駅、防災緑地、釣師浜漁港、災害公営住宅、など）
- 11:00 釣師地区の元の町並みを再現したジオラマ、復興フラッグ
- 11:20 「しんち地場産市場あぐりや」買い物、ご案内終了
- 11:40 常磐自動車道 新地 IC～相馬鹿島 SA（昼食 40 分）
- 14:20 常磐自動車道 中郷 PA（15 分休憩）
- 15:50 常磐自動車道 守谷 SA（15 分休憩）
- 16:05 首都高速～横浜駅西口
- 17:10 解散

2.2. 新地町視察研修の様子

新地町役場で復興推進課職員の方から復興の状況について説明を受けたあと、役場の 4 階にある見晴らしのよいスペースから役場の周辺を見せていただいた。次にバスに同乗していただき町内を視察した。新地駅の周辺や釣師浜で進んでいる復旧・復興工事の様子を見ることができた。また集団移転先や災害公営住宅も拝見した。

再び役場に戻り、心の復興事業として進めてこられた釣師地区ジオラマ、復興フラッグの保存活動について実物を見ながら説明を受けた。

最後に、地元の農産物などの直売所「あぐりや」に立ち寄り、野菜やイチゴを購入した。

2.3. 視察研修資料等

資料名	ご提供
新地町の復旧・復興状況	新地町（庁舎内座学説明）
新地町 釣師地区ジオラマについて	新地町（ジオラマ説明資料）
新地でくらそう	新地町（企画振興課資料）
新地町観光ガイドブック	新地町（企画振興課資料）
新地町の魅力発見（モデルコースガイド）	新地町（企画振興課資料）
復興フラッグストーリー	RevivalF
復興フラッグ～人と人をつなぐ震災を風化させない～	RevivalF（ピンバッジ）

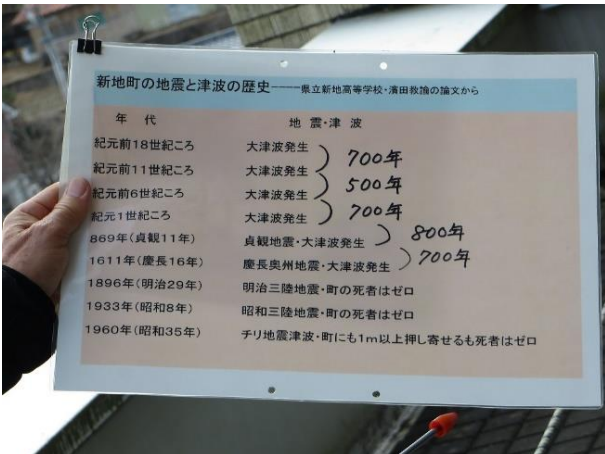
3. 視察記録（写真一部）



新地町役場



新地町役場での講話



歴史



ジオラマ



新地町役場の屋上から



まちづくりに関するパネル



JR 新地駅



新地駅前フットサル場



防災緑地の公園



釣師漁港



エネルギーセンター



釣師地区ジオラマ



新地駅を再現したジオラマ



復興フラッグ



福島県内で初めてのラウンドアバウト



庁舎前にて



復興フラッグ



「あぐりや」

4. 視察研修参加者報告

参加者が視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、などを視察研修報告として提出していただき、以下に参加者研修報告としました。

ご高覧いただけましたら幸甚です。

なお、参加者の研修報告の内容・文章は変更を加えていません。

記録上、不適切な内容・表現があるかもしれませんが、それぞれの参加が実際に感じたことです。ご理解いただけましたら幸いです。

また、参加者氏名は無記載とさせていただきます。

《以下、参加者報告》

【参加者：男性 50 代】

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

○新地町の復興状況について（町職員の方のお話）

たくさんの資料をいただき、現在までの復興状況のお話を伺った。大震災の津波で、JR 駅周辺及び漁港周辺という市の中心となる地域が壊滅したため、何もかも新しく整備しなければならぬ困難な状況が、画像によるお話と、屋上でのお話から、大変よくわかった。町職員の方の話の進め方は、理路整然として大変良かった。

○新地町の町内視察

災害住宅、JR 駅周辺、防災緑地、漁港などを視察した。きちんと計画された町の整備状況がよくわかった。漁港の関連施設も整備されているので、今後本格操業ができれば、活気づくであろうと思われた。また、JR 駅前に温泉施設、宿泊施設を整備するなど、今後の集客、町の発展を予感させる施策には感心した。防災緑地も生活する人が気持ちよく感じられるようによく整備された設計であろうと思われた。

気になることが 2 点あった。1 つ目は、買い物できる商店が少ないことである。2 つ目は、住民の方々の要望を受け入れて細かく分散された災害住宅では、人口が減少した場合に住民の孤独感が増すことが予想される。今後、町としてどう対応するかのお話を伺いたかった。

○ジオラマ、復興フラッグ

ジオラマを実際に見ながら、作成過程のお話を伺った。ジオラマは家の一軒一軒の配置まで詳しく再現されており、当時の町並みが想像できる大変素晴らしい出来栄のものであった。建物を再建する復興も重要であるが、住民の心の復興あるいは癒しも重要である。かつての町並みを再現するジオラマを、希望する住民と一緒に作成する試みは、私共も勉強になった。

偶然から生まれ震災時から代を重ねて今ある、きれいな復興フラッグを、町民を元気づけるシンボルにしようと考えたことは素晴らしいことだと思った。町の発展を祈りたい。

**【参加者：男性 60 代】**

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

1. 視察研修報告

これまでの視察研修は、富岡町～浪江町、葛尾村、川内村と原発事故による避難指示を受けた町村でした。今回の相馬市と新地町は、避難指示を受けなかった初めての市町でした。避難指示は自宅や地域社会を離れて他の市町村に避難せねばならず（結果的には長期に亘って）想像を絶する大変さを感じ取ってきました。新地町は避難指示こそありませんでしたが、津波警報を受けて多くの方々が避難された点は同じです。

当時の町の対応についてお話を伺って印象に残ったのは、一つは庁舎の被害がほとんどなく本部機能が維持でき、避難所としても自衛隊の宿泊所としても利用できた点。もう一つは被災 3 日後にバラバラ避難を地域ごとに再編された点です。後者は、集団移転等の復興について町民参加で日々議論がなされ、被災地のトップランナーとして満足度の高い住まいの再建に繋がったのだと思います。町の規模が大きすぎず町民がまとまりやすい大きさだったのも一因かと思いました。

発災後、他の被災市町村が人口減少に至っている中で、新地町が人口をほぼ維持ないし増加しているのは、LNG 基地の大規模プロジェクトや南相馬市からの総合病院の移転などが大きいと伺いました。原発事故の影響が小さかったのが良かったのだと思いました。

今後は、釣師防災緑地や埴浜防災緑地が完成したらまた訪れてみようと思っています。

2. お礼

新地町職員の方々等、休日にも係わらず対応して頂いたすべての皆様に感謝いたします。新地町の発災当時と現状を良く知ることができました。

【参加者：女性 50 代】

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

日の出をホテルみなとやの部屋から見ることができ、船の出入りと明日の漁を準備する風景を見ながら、たっぷりと朝食をいただき新地へ向かいました。

以前役場から見た新地町と比べ住宅再建もほぼ終わり、6M かさ上げされた駅周辺も様々な施設が建設中で釣師防災緑地整備も道路の全面開通、新地インターの高速バスストップ建設も進んでいます。LNG ガス事業もかなり大きなものだと思います。

こちらも、被災三日後に元のコミュニティを大切に避難所を再編、新しい住まいを何度も何度も話し合いながら決めていったようです。南相馬から渡辺病院の移転、他新地クリニックなどの移設と移転者、新しい家が増え、道路も変わりこれからゆっくりと街並みの変化と共に整ってくるようです。

釣師の街並みを 3D プリンタで再現する話には、被災者であり作成者であることの気持ち、怖い、つらい、残したいと思う気持ちから私がやろう！と始めたそうで、泣くものは作ら



ない！と決めたそうです。いいな！いいな！とみなさんが思える日が来るといいですね。まだまだ直視することは難しいことなんです。

復興フラッグにも新地のみなさんの意気込みが感じられます。

被災当時は、1960年チリ地震の津波の印象がみなさん強く、津波は逃げる必要がないものだ、水が引いたから魚が取れたという認識で、逃げるのが遅れた原因でした。これは、どの土地でも言えることで、私の住む辺りでも長く漁師をしている人が逃げているんだから大丈夫だという話を聞きました。自分で避難する判断をして行動することは、私自身できるのか分かりませんがそうありたいとは思っています。

宮城県境まで 300m、「あぐりや」では美味しいイチゴをたくさん購入、並んでいる物が宮城の食に近い気がしました。いちじくアイス、焼き芋、お惣菜、野菜、キムチ、原町製パンなど美味しくいただきました。

通ってきた常磐道の各地も、中間貯蔵施設への輸送、新しいインター、スマート IC 建設、新役場など変化が見受けられます。今まで何うことができた町の事も振り返りながら、できるだけ福島に関わっていけるようにと思っています。

【参加者：男性 50 代】

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

新地町はどこにあるのか場所がわからなかったが、今回の視察で知ることができた。沿岸部の被災状況も初めて知った。新地町周辺の整備は進んでいるが、集団移転先が高台分散型団地になったため、将来高齢化が進んだ時の交通移動手段をどうするかが課題。

釣師地区ジオラマを制作している職員の方が、復元した街並みを住人の方達が悲しむのではなく懐かしんで、前に進んでもらいたいといっていたのが印象的だった。

復興フラッグは、心の復興のシンボルとして掲げ続けてもらいたい。

いまだに福島県産の海産物、農作物の風評被害が大きく販路が広がらず安く買いたたかれているのが残念で、とても悔しい。

【参加者：女性 60 代】

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

●福島は地震の被災地だということ

つい原発被害を考えてしまっていたが、原発問題とは別に（またはその前に）地震と津波で多くの被害を受けた地だということを忘れていたことに気づかされた。

●8年経ったということ

相馬市職員も商工会議所の方も新地町職員も、今日までの経緯を語ってくださったが、当時

あったはずの混乱や困難などの詳細はあまり語られず、あるいはこれからのことにそのことに‘過去のことなのだな’と感じた。

それはごく当然なことで、むしろ 8 年経ってようやく、であったり、8 年経ってもまだ、というべきかもしれないけれど。

その中で語り部の方があの日をつなぎとめていてくださるのだな、と。

●自治体のこと

相馬市では市長のリーダーシップが随所に感じられた一方、新地町では職員の発案がいかされていることが印象的だった。とかく行政には不満を抱きがちだが、職員・担当者は皆さん相当な責任や負担を熱意で乗り越えておられるのだと思う。殊に災害時の復興には行政と市民（民間）の協調がとても重要だと感じた。

●その他

行きの車内で甲斐さんが持参くださった映像を見ることができたのがとてもよかった。ありがとうございました。

東さんには手際よく皆をまとめていただきました。ご苦労さまでした。

【参加者：男性 50 代】

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

「新地町の復旧・復興状況」を聞いて（新地町役場）

JR 常磐線を陸側に移設し、跡地をバイパスとして盛土して第二の堤防の役割を持った津波から逃れる際の遮断が問題となったため、新設の避難道路から踏切をなくした震源地は新地町のほぼ真東、浸水率は町の 1/5、役場庁舎裏で浸水 20cm

移転する高台は津波到達高より高い 10m 以上とする

移転先団地の公園にあるベンチは、有事の際のかまどと(薪があれば炊出し可)を常備させた

原発の影響で病院の移転、天然ガスパイプライン関係者、火力発電従事者により、人口が増えている

釣師浜は津波被害が大きく、想いの丘など防災緑地を整備中

緑地最高点は 10m から、地震発生時刻 2:46 分を上乗せした 12.46m とした

復興フラッグ、初代の旗は瓦礫の中から見つかった国旗を岡山自衛隊が立て、福岡自衛隊が寄せ書きした二代目、雨風で痛んだためボランティアが三代目を立てた。現在はデザイン画を入れた四代目。バイク愛好家の聖地となっている

1960 年のチリ地震の津波は被害ではなく、魚が大量に取れた良い記憶となり、高齢者を中心に津波＝避難不要との間違った意識が代々語り継がれてきた

新地町の町内視察

駅前整備地区、 釣師防災緑地、釣師漁港

ジオラマ、復興フラッグ

在りし日の町並みをジオラマで再現、製作プロセスに被災者が関わることで心の浄化や前向きな気持ちへの一歩とする、心の復興事業の一環

新地町全体のジオラマを役場 4 回に展示するとともに、特に津波被害が大きかった釣師浜地区を航空写真による測量データを使い 3D プリンタで再現、カラー写真の陰影などは手塗りで微修正

石巻沿岸部(南浜/門脇地区)を再現した石巻専修大学の研究室の協力で実施した

<https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/news/20181012-06.html>

新地町は地盤沈下により建物の損傷が大きかったため、震災遺構として残すものがなかった

そこでジオラマや復興フラッグなど「震災アーカイブ」という記憶を記録する事業に取り組んでいる

http://www.reconstruction.go.jp/portal/chiiki/hukkoukyoku/fukusima/material/20171010_y-yosimoto.pdf

復興フラッグは、自衛隊が瓦礫から見つけた国旗を掲揚したことに始まり、ボランティアが損傷とともに代々受け継いできた旗とメッセージを、町として引継ぎ震災アーカイブのシンボルとした

震災前よりライダーの聖地であったことから、ライダーと結びつけ復興を思う人々の気持ちとし、釣師浜防災緑地に永続的に設置することになった

【所感】

復興は計画に従って着実に進んでいるが、小さな町のため被災した沿岸部のハードを全面的に作り変え新しい街づくりを行ないつつある、が目に映る

復興推進課のメンバーを中心として、震災アーカイブによる心のよりどころとなるシンボル作りに力を入れている、いまは受入れが難しい人もいずれやってよかったと思えるような形になってほしい

復興庁の壊れたものを直すまでが国の支援範囲というのが、震災アーカイブの足かせになっているのが残念であり、民間や NPO 等の個人が手を差し伸べる対象なのかもしれない

【参加者：女性 60 代】

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

新地町に初めて行った。よく考えると常磐線で夜、逆方向に乗り換えるときに大きな駅で（寒いので待つ時間）と思い、素晴らしく今風の、下にキヨスクがあるのでと思ったほどの駅が新地でした。内陸部に一部線路も駅もうつり、今回の研修で、町の整備された地域を見て回る事ができた。

庁舎のベランダから見渡す限りの（海まで 2km 位とか）すべて新しく整備されていた。公営住宅の払い下げ、各戸、いろいろな間取り、外観もそれぞれ、そして以前の家に限りなく近い場所に、と。あたたかな心遣いに感動した。地域のコミュニティを大切に一番にと。理想を実現化できる地はやはり・・・帰れない他の町とは別とも思い、複雑ではあったが、失った大きさはどこの地でも同じか。

駅前の商店も改装中。しかし広く移動が大変な車社会。

釣師防災緑地も本当に広大で歩く方は、と思う。

ラウンドアバウトや空中歩道、そして植樹育成と、どんな緑地となるのか楽しみ。

地区ごとの災害公営住宅から作れる土地の広さは本当にすごいと。

ジオラマ

庁舎 4 階の神戸大の学生の作られたジオラマには個人宅の名前が入っていたりしていた。復興振興課で作成のジオラマはとても精巧で影まで入っていて、案内していただいた釣師がこんなにたくさん家で、さぞかしのにぎわいであったんだとしみじみした。

土地の方にはこの再現された風景を目にした時の気持ちはと。でも記憶として残されなければとの強い意志で作続けたスタッフがいたこと。ずっと語られると。

観海堂 明治時代、多分日本で初めての学校。共立学校。茅葺の校舎が残っていたものの、今回流されてしまい復元難しくジオラマで作られていた。跡地は観海道公園となる。

復興フラッグ

4 代目となり、すべて違う方が同じ場所に建てられていた。”負くんな新地”、”蘇生日の丸”新地町のアーカイブとして釣師防災緑地の駐輪場に建てられる予定（バイクのスタンド立てにもシールを貼る）

初代の旗ががれきの中から見つけられた日章旗というのがすごい

コミュニティ支援員の川上さんのお話が圧倒的な印象で、このパワーで新しい新地町が気持ちの良い町に、また復興していくに違いないと、皆も心強さを最後に確信できたよい視察の終わりとなった気がします。ありがとうございました。

【参加者：女性 50 代】

視察・研修して知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと、など

福島の浜通りの中でも最北端の新地町を訪れる機会はこれまでなかなかなく、よく知らないことも多い中で、まず新地町役場に伺い、町の復旧・復興状況についてスライドを使ってご説明いただいた。続いて役場の 4 階にある見晴らしのよいスペースで、大型の町のジオラマを拝見し、役場から見える周辺の様子をご説明いただいた。海が近く平坦な地形から、常磐線の新地駅を含め沿岸部の津波被害が甚大だったことが伺えるが、被害を受けた方々は地区ごとにまとまったの集団移転や災害公営住宅への入居が進んでいるようだ。公営住宅は一定期間が過ぎると入居者への払い下げが可能になることもあり、あえて一戸一戸の間取りや外観を変えているとのこと、あまり他の自治体では見たことがなく興味深かった。住民のことを第一に考えてきめ細かく復旧・復興を進めていることが感じられる。

次に、職員の方々にバスに同乗していただき町内を車窓からご案内いただいた。まず沿岸部だが、災害危険区域は防災緑地や公園の整備中で、まだまだ未完成な様子だった。万が一津波が発生したときに沿岸部から避難するための幅広い階段や高架道路も作られている。新地駅は運行再開しているものの周辺の商業施設などは現在工事中で、商店や温泉施設ができるのは楽しみだと思うが、近隣に住民がいないため採算面が少し心配になる。駅と各地区を結ぶコミュニティバスなどがあればいいのだが。

災害公営住宅や集団移転の町並みも拝見したが、車が何台も止められるほど敷地が広いこと、デザインがモダンなことが印象に残った。広いのは土地が安いからとご説明があったが、漁業者の方などは、敷地内に仕事道具を収める倉庫を建てているお宅もあった。

再び役場に戻って、心の復興事業として進めてこられた釣師地区ジオラマを見せていただいた。航空測量データを元にして立体データを作成し、3D プリンタで「印刷」したというジオラマは見応えがある。立体データについては、建物の影になっている部分の色を細かく修正するなどの地道な作業があったとのこと。また出力後に、海の波や船などリアルな造形が施されている。このジオラマはいずれ、釣師防災緑地が完成したときに管理棟に展示されるそうなので、機会があればぜひ訪れたい。

釣師地区に立てられた復興フラッグのストーリーも聞かせていただいた。沿岸部の捜索に来ていた自衛隊員が立てた日の丸が、2 代目、3 代目と引き継がれ、バイク愛好家やイラストレーターなどの協力を得て新たに 4 代目が制作されたという。これも保存活動を経て、防災緑地内にある元の場所に戻るとのこと。

ご説明くださった復興支援員の方も、震災後はしばらく何もする気が起きずぼうぜんと過ごしていたとのことだったが、さまざまな縁があり復興に向けて前向きに取り組まれている様子だった。町民参加のワークショップや民間の活動などを通じて、住民の方々が少し



ずつ前に進まれていることが感じられた。

最後に、新地町職員の皆様には、休日にもかかわらず丁寧にご対応いただき感謝申し上げます。今後も何かの形でつながりが持てましたら幸いです。

5. 参加者情報

5.1. 参加者数（内 1 名欠席）

	合計	女性	男性
参加者	10 名	5 名	5 名
宿泊者	10 名	5 名	5 名

5.2. 参加者年代

	30 代	40 代	50 代	60 代	70 台
年代	0 名	0 名	6 名	4 名	0 名

5.3. 参加者地区

横浜市神奈川区	横浜市港南区	横浜市都筑区	相模原市	座間市
1 名	1 名	1 名	2 名	1 名
秦野市	葉山町	藤沢市		
1 名	2 名	1 名		

6. 視察研修便参加者アンケート集計

今回は参加者 10 人でした。内 1 名体調不良で欠席。

解散時に受理した回答数は 8 で、() 内の数字が有効回答数です。

(1) 参加のきっかけ

- a (04) 福島でお手伝いしたいと思ったから
- b (06) 日程や工程がよかったから
- c (----) 知人・友人に誘われたから
- d (02) その他
 - ・視察研修に参加したかったから
 - ・あまり訪れる機会がなかった被災地の話を聞きたかった
 - ・現状を知りたい

(2) 情報提供

- a (07) ちょうどよかった
- b (01) 少なすぎた
 - ・訪問場所、大まかなルート
- c (----) 多すぎた

(3) 活動内容

- a (05) 非常に満足
- b (03) 満足
- c (----) 不満
- d (----) 非常に不満

(4) 今後も kfop のボランティア活動に参加しようと思いますか。

- a (08) 参加したい
- b (----) 参加したくない
 - ・現地ニーズがある限り、また繋がり続けたい

(5) 計画に示している現地活動等に参加したいと思いますか。

- a (08) 広域便
- b (05) バス便
- c (08) 視察研修便
- d (03) その他

(6) 今回の活動についてご意見、神奈川に伝えたいこと（自由に）

- ・ これまで知らなかった相馬市、新地町の状況をよく知ることができました。とても良い研修になりました。
- ・ 2月という日程はあまり良くなかった（参加者数、天候、インフル流行など）ので、反省点として今後の計画で考慮する必要がある。（今回は調整で2月となった。）
- ・ 避難対象外（受け入れ側）の8年目の状況をいろいろな立場の方からお話を伺い有益な時間でした。新しい街づくりのスタートを知ることができ、避難がなかったからこそコミュニティを維持することを大切に実施できたと感じました。
- ・ 福島の沿岸部、被災の地、知らずに訪れもせずの場所が、あまりにも広く（当然ですが）、あらためて復興に向け日々活動している方達を想いました。
- ・ 現地の方々が復興への熱い想いを抱いていることを知ってほしい。
- ・ 2日間とも、現地の状況を知るととても良い機会となった。現地の方々がたくましく前へ進もうとされる姿を見せていただき、少し安心できた。災害を踏まえた暮らし方等は神奈川でも取り入れたい内容がたくさんあった。研修に向けご準備いただき感謝申し上げます。

(7) 今後の活動に期待すること（自由に）

- ・ 福島の窓口となってあり続けてほしい。
- ・ 今回の相馬市、新地町では、海開きに向けた海岸清掃や、防災緑地など何らかのボランティア活動が企画できるかもしれない。
- ・ 入念な準備と継続的な人と人のつながり、信頼関係で成立する活動だと思います。8年がたって地域ごとのニーズ変化に応じるのは難しいと思いますが可能な限り続けてください。
- ・ 視察の名でも、現地の方のお話を伺うだけでも、応援になるなど。また続けることを希望します。
- ・ 海岸（砂浜）清掃とか、バス便を出せないか（現地のニーズもある）（人数が多いとよい）
- ・ 飯舘への研修便はどうか。
- ・ 現地のニーズに合った活動を考えると、これまでのスタイルから変わっていくことはやむを得ないと感じている。

(8) アンケート回答者の属性

- 性別：男性(04),女性(01),無回答(--)
- 年代：20代(--),30代(--),40代(--),50代(04),60代(02),70代(--),無回答(01)
- 職業：会社員(03),自営(01),パート(02),家事(--),無職(--),その他(01),無回答(01)
- 経験：初めて(--),2-3回(--),4-5回(--),6-9回(01),10回以上(06),無回答(01)



7. 会計（実績）

（単位：円）

項目	金額	個数	合計	備考
バス費	117,880	1	117,880	端数倶楽部支援金（寄付）
宿泊費	1,000	10	10,000	kfop 事業 3 費
飲食費	7,964	1	7,964	kfop 事業 3 費
バス代実費（バス代）	5,600	10	56,000	参加者自己負担
バス代実費（旅行保険）	200	10	2,000	参加者自己負担
高速代実費	17,680	1	17,680	参加者自己負担
宿泊実費	7,500	10	75,000	参加者自己負担
飲食実費	16,256	1	16,256	参加者自己負担
語り部代実費	2,000	1	2,000	参加者自己負担
雑費（実費）	3,564	1	3,564	参加者自己負担
研修報告冊子化代	5,000	1	5,000	azbil みつばち倶楽部（寄付）
研修報告冊子化代	5,000	1	5,000	端数倶楽部支援金（寄付）
合計			318,344	

※バス代実費、宿泊費等は参加者の自己負担。参加者が直接バス会社、宿泊先へ支払い。

※バス代金の一部は、富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部様の支援金（寄付）を活用した。

※視察研修報告書の冊子化費用は見込みで計上

（azbil みつばち倶楽部様、端数倶楽部様の支援金（寄付）を活用）

以上



保護用紙